

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	子育て文教常任委員会	委員名	上野 和幸
視察地	兵庫県 加古川市		
調査事項	部活動地域展開に向けた取組について		
視察年月日	令和7年11月12日		
視察内容	<p>1 加古川市の概要について</p> <p>兵庫県南東部の播磨灘に面し、播磨平野を貫流する「加古川」や豊かな自然に囲まれた町であり、古代から街道の宿場町として発展し、現在も京阪神などへのアクセスに優れている。人口は、253,593人。中学校数：12校である。</p> <p>2 加古川の部活動地域展開に向けた取組について</p> <p>① 加古川の部活動の現状について</p> <ul style="list-style-type: none">・少子化による生徒数の減少→学校単位の部活動は限界・学校間の部活動選択肢の差→現在でも地域格差が生じている・教員の大きな負担→教員で支えられなくなっている・生徒の意識の変化→「より楽しむこと」や「新種目」の希望 と、本市の抱える課題と同様である。 <p>② これまでの主な取組について</p> <ul style="list-style-type: none">・部活度地域展開にかかる方針決定（R7.3月）→R9.8月完全実施。・外部委員による検討委員会の実施・アンケート調査（R5、R7）・関係者ヒアリング・試行プラン <p>③ 加古川の部活動地域展開のコンセプトについて</p> <p>加古川市においては、部活動を地域に移動するという考えではない。これからの中学生の放課後の過ごし方について、根本から見直すというコンセプトである。そのため、新たなスポーツ・文化芸術活動として「加古川市の地域クラブ活動」である「かこ☆くら」を設置し、校区を超えて自由な選択ができる活動を考えている。すでに、R9.8月の全面実施に向けてスケジュールを市民に対し示し、市民説明会を進めている。</p> <p>3 所見</p> <p>加古川市の部活動地域展開については、2年後の部活動の全面中止を視野に入れた取組であり、その大胆な発想と計画的な取組を知り、「目から鱗」でした。兵庫県全体が前向きな取組をしていて、神戸市なども2年後の部活動中止を決めているとのことでした。私たちの旭川市は、一向に前には進んでいません。今後に向け、早急に取り組む必要性を一層感じました。今回の視察内容をモデルとして、旭川の現状に合わせた取組を教育委員会、スポーツ課と共に考えていきたいと強く思いました。</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	子育て文教常任委員会	委員名	上野 和幸
視察地	東京都 武蔵野市		
調査事項	武蔵野市立ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイスについて		
視察年月日	R7年11月13日		
視察内容	<p>1 武蔵野市の概要について</p> <p>市の東側が東京23区に面しており、生活の利便性が極めて高く、緑豊かで良好な住環境が広がる暮らしやすい街である。人口は148,285人である。</p> <p>2 「武蔵野プレイス」の概要について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 2011年7月開館・ 延床面積 9,809.76㎡ ・ 開館時間 9:00~22:00 (水曜日休館)・ 年間来館者数 169万1328人 (2024年度)・ 機能: 図書館 市民活動 青少年活動支援、生涯学習支援 <p>3 「武蔵野プレイス」の理念について</p> <p>「武蔵野プレイス」は図書館、生涯学習センター、市民活動センター、青少年センター等といったこれまでの公共施設の類型を超えて、複数の機能を積極的に融合させ、図書や活動を通して、人と人が出会い、それぞれが持っている情報(知識や経験)を共有・交換しながら、知的な創造や交流を生み出し、地域社会(まち)の活性化を深められるような活動支援型の公共施設を目指している。</p> <p>多様な人々がそれぞれの活動を通して時間を共有する快適な交換(場)は、地域社会の魅力を高めることに寄与している。</p> <p>「場」=「プレイス」ということばには、この期待が込められている。</p> <p>4 新しいタイプの公共施設(複数の機能が集まるメリットを最大限生かす)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 多様なニーズに応える(駅前という利便性の高い場所を有効活用)・ 個々の機能を超えたこれまでにない新たな価値を持つ施設・ 固定的なサービスを提供する従来型の公共施設の枠組みを超える <p>【諸機能の並置から連携・融合 → 付加価値の付いた情報・サービス】</p> <p>魅力ある施設にするというコンセプトである。</p> <p>5 所見</p> <p>魅力あるコンセプトを持つ「武蔵野プレイス」は、そのコンセプト通りの素晴らしい機能を持つ施設である。また、その姿は、曲線を巧みに使った各フロアは、暖かく心が和む設計となっており、設計者のセンスを感じることの出来る建物である。立ち寄るだけで、安らぐことの出来る大変魅力的な施設である。さらに、各フロア各エリアのコンセプトがしっかりしていて、利用者目線で活用しやすい工夫がされている。現在、本市にはこのような複合施設はないが、今後検討の余地はあると感じた。特に青少年の集まる場所の確保は急がなければならない。</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	子育て文教常任委員会	委員名	上野 和幸
視察地	神奈川県 大和市		
調査事項	大和市文化創造拠点シリウスについて		
視察年月日	R7年11月14日		
視察内容	<p>1 大和市の概要について</p> <p>大和市は神奈川県ほぼ中央に位置し交通の利便性と豊かな自然が調和した住みやすい街である。小田急線や相鉄線、東急田園都市線の3路線が通り都心や横浜へのアクセスが良好である。</p> <p>2 大和文化創造拠点シリウスの概要について</p> <p>2016年の開館から累計来館者数約2,000万人を超える魅力ある図書館である。図書館は、静かに本を読んだり、調べ物をしたりする場所であるが、シリウスは本が主役ではなく、本を読むことを大切にしながら、いろいろな人が笑顔で過ごせる場所を提供したいというコンセプトを持っている。駅から数分と言う利便性と各フロア違った顔をもつ図書館、そして、メインホールやギャラリー、スタジオを併設する魅力ある施設となっている。</p> <p>3 各階のテーマについて</p> <p>1F：感動が生まれる 感性と創造の場～二つのホールとギャラリー</p> <p>2F：楽しく語り合う 市民交流のフロア～市民交流の場、快適で落ち着いた空間</p> <p>3F：思い切り遊んで学ぶ 大和こどもの国～笑顔とワクワクがあふれる子どもの国</p> <p>4F：くつろぎながら本に親しむ 健康都市図書館～地域交流の場としても</p> <p>5F：調べて学ぶ 図書館～調べ物をサポートするフロア</p> <p>6F：仲間と集い学ぶ 生涯学習センター～様々な生涯学習活動に対応したスペース</p> <p>各階ごとに、違う管理委託業者が管理しています。</p> <p>4 所感</p> <p>1日の来館者が、平日で8,500人、土日になると1万人を超えるという人気施設です。駅からの利便性も当然、人気の理由ではありますが、全館図書館というコンセプトのもとに、各階の委託業者がその専門性を活かし、魅力あるイベントや装飾、サービスを施すことで「また、来よう」という思いになるのだと話を聞いて感じた。例えば、3階の子どものフロアでは、生まれたばかりの乳児の遊び場や保育室、中高生には楽器演奏ができるスタジオが整備されている。来館者の目線で、如何様にも利用が可能である施設は大変魅力的である。</p> <p>残念ながら、本市にはこのような複合施設が存在しない。公共交通が不便な本市にとって、どこにこのような施設を建てるかと言う基本的な問題はあるが、今後、市有施設の老朽化に伴い、建て替え時には市民の声を聴きながら人の集まる複合施設の必要性を強く感じる。建て替え時期の文化会館の複合的な利用について検討可能なら、考えるべきに思う。</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること